連　載

―――第8回　子育てと同じ愛情を―――2016.12.12

「生け垣は人と同じく生きて行きます」

生け垣は子供と同じで愛情をもって育てなくてはいけないと思います。そうすることで、立派に成長し、見栄えのする生け垣になっていくでしょう。大人たちは年老いていきますが、子供が幼稚園・小学校・中学校・高校・大学と成長していくように生け垣も生長し、いつまでも生きて行きます。それを保全し、思いを伝えていくのは、私達大人の役目です。生け垣は次の世代に引き継いでいくべき財産です。親の代で無くなってしまっては、子供たちの思いにこたえられません。

生け垣の手入れを好きになってください。好きになると手入れもうまくなります。

○生け垣を思いを込めて剪定してみてください。

○独り言を言いながら思いを込めて水やりしてみてください。

○思いを込めて草取りをしてみてください。

五感が刺激され認知症予防の効果も

ある介護施設では、花壇をつくり、草花を育てる認知症治療法を取り入れています。生け垣の手入れも同じで、指先を使い五感を刺激することが認知症予防に効果があるそうです。生け垣の木は愚痴（ぐち）をこぼしません。好きなようにさせてくれます。しかし、中途半端な手入れをすると枯れてしまいます。見栄えのする生け垣を造り賞賛を受けるのは気持ちがいいものですが、誉めてもらわなくても自分が満足できるものであればいいのです。

個人の手造りの庭を一般公開する、庄原市の「さとやまオープンガーデン」を見てきました。その家の奥様が説明役となり、熱のこもった庭造りの話を聞くことができました。庄原市のようにはいかなくても、「花の季台は生け垣がよく管理されている団地」だと、外部の方が昔のように見学に来られるぐらいになってほしいものです。最近までは不動産業界では花の季台は人気のある団地だったそうですが…。

島根県にある足立美術館は、日本一の庭園の栄冠を13年連続で受けたことでも有名です。美術館でありながら見事に手入れされた枯山水の庭園は見る価値があります。庭園を管理している造園士の方の話を聞くのも、生け垣を手入れするための感性を養うのに良いと思います。日本一の栄冠を守るための苦労は並大抵のことではないと思います。一度訪れてみてはどうでしょうか。

◆講習会の案内　来年2月12日（日）、大塚公民館で「生け垣手入れ講習会」を開催します。枝が欠けたり、裾がスカスカになったりして困っているお宅は、手入れ次第では元の姿を取り戻せます。一緒に勉強してみませんか。詳細については1月に回覧で案内いたします。